旅行業・運輸

JTB発表
年末年始の国内宿泊旅行 人数、費用とも前年増

JTBは12月5日、年末年始（出発日基準12月23日～18年1月3日）に宿泊を伴う旅行に出掛ける人の動向の見通しを発表した。「家計の節約傾向は続くものの、昨年より長い休暇が取りやすく、冬のボーナスも増える見込みで、この期間に限っては節約度合を少し緩め、休暇を楽しむ傾向と考えられる」と同社。

国内旅行については「帰省したり、少し長めの旅行をしたりする人も増えそう」と見ており、人数が前年比0・9%増の2957万人、平均費用が3・1%増の3万1900円と共に前年を上回るという予測を示した。

年末年始の休暇は、暦通りならば、12月30日から1月3日（水）の5日間だが、仕事納めを12月28日とするところも多く、またメーカーなどでは1月4日、5日を休みにする企業もある。10連休以上の長めの休暇取得も可能な日並びだ。

同社のアンケート結果によると、国内旅行の旅行日数は、昨年より1泊2日が減少し、2泊3日や3泊4日が増加。昨年より少し長めの旅行をする人が増えそうだ。利用宿泊施設は、「夫や妻の実家」が2・7ポイント増の39・9%と多く、帰省が多い。一方、「ホテル」（4・2ポイント増の28・5%）と「旅館」（1・0ポイント増の15・2%）も増加しており、実家以外に泊まる旅行にも期待できるという。

旅行先に関しては、「東北」と回答した人が増えている。「JTBの宿泊予約状況をみると、山深い秘湯や、スノーシューツアーなど冬の屋外アクティビティができる地域が人気で、冬の東北の魅力が広がってきたことが感じられる」とJTB。

一方、海外旅行は人数が2・8%増の70万4千人、平均費用が0・4%減の20万6千円と推計している。

国内旅行の行き先
（単一回答）

	%	昨年差
北海道	5.1	▲ 1.7
東北	10.8	＋ 4.7
関東	23.4	▲ 5.6
甲信越	8.9	＋ 0.8
東海	13.9	＋ 3.1
北陸	2.5	▲ 2.2
近畿	13.3	＋ 0.5
中国	7.6	＋ 2.2
四国	1.9	＋ 0.5
九州	10.1	▲ 2.0
沖縄	2.5	▲ 0.2

高速バスマーケティング研究所
東京でフォーラム開催

高速バスマーケティング研究所（成定竜一代表）は12月5日、第5回「高速バス・マネジメント・フォーラム」を東京都内で開いた。バス事業者など145人が参加した。

成定代表＝写真＝は冒頭あいさつでフォーラム開催の目的について次のように語り、高速バスを取り巻く環境の厳しさに触れた上で、生き残るための変化を呼びかけた。

「地方の人の都市への足」として成長してきたこの国の高速バスにとって、地方部における沿線人口減少はそのまま市場縮小に直結する。さらに、高速バス市場の本丸である高頻度昼行路線で、同じ市場縮小に直面した競合交通機関が、本格的にレベニュー・マネジメントを導入し、競争力を強化して、高速バスの顧客を奪う事態こそ大きなリスクだ。

社員旅行や教育旅行など「社会的旅行」が減少するとともに、旅行者が成熟し、旅行形態が団体から個人へとシフトする中で、貸切バス市場の縮小も避けられない。

新高速乗合バス制度で示された「貸切バス型管理の受委託」「幅運賃」の仕組みは、高速ツアーバスで効果が実証されたレベニュー・マネジメントの手法を高速乗合バスでも活用するために導入されたものであり、これらを活用することで、現有顧客基盤の中で、収益性を高めることができるが、現時点では十分に活用されているとは言えない。

同フォーラムでは、「『自動運転バス』現在の課題と将来像」（SBドライブ・シニアプロジェクトマネージャー・大澤定夫氏）、「個人旅行（FIT）化が進むインバウンド取り組みに向けたバス事業者の戦略紹介」（GSE南薩観光・グローバルチームリーダー・スタディンキャメロン氏）、「バストリップをモデルチェンジする！『ハートツアー』は『LIMON』へ」（神姫バスツアーズ・取締役部長・阪田悦規氏）、「『ドリーム号』のブランド確立に向けたPR戦略」（西日本ジェイアールバス・取締役営業部長・林田広司氏）などの講演を実施。

さらに、成定氏が豊富なテレビ出演の経験から「バス事業者の広報（PR）の基礎」を、日本旅行業協会広報室長の矢嶋敏朗氏が、現職および日本旅行広報室長時代の経験から「クライシス（大事故等）時の報道対応」をそれぞれ講演した。

階俊博会長（衆院議員）も出席＝写真。2016年1月15日に発生した軽井沢スキーツアーバス転落事故に触れ、「日頃から絶対に事故は起こさないという大きな決意をもって対応していかなければならない」と注意喚起した。最後に「力を合わせて業界の発展のためにみんなで努力することを誓い合いたい」と会員を激励した。

ANTA
旅行サービス手配業者「協力会員」として入会

全国旅行業協会（ANTA、5644社）は12月7日、平成29年度臨時総会を東京都内で開催した。新設される「旅行サービス手配業」を「協力会員」として入会を認めることなどを決定した。

「旅行業法の一部を改正する法律」が1月4日から施行され、ランドオペレーターの諸問題への対応を図るため、新たに旅行サービス手配業の登録制度が設けられ、規制が行われる。旅行業協会の関係では、旅行サービス手配業者の入会、法定業務としての苦情処理、研修、指導などの業務が加わることから、定款の一部を変更するため今回の臨時総会が開かれた。

会の「正会員」は、現行の定款通り、旅行業者とする。旅行サービス手配業者については、「旅行業者とパートナーの関係にある」（有野一馬専務理事）ことから、新たに設ける「協力会員」として入会を認める。会の目的に賛同する者を「賛助会員」とするのは従来通り。

臨時総会には多忙な二

楽天LIFULL STAY
Booking.com
民泊事業で業務提携

太田社長（左）とブラウンステイン氏

楽天グループの民泊事業会社、楽天LIFULL STAY（＝楽天ライフルステイ。本社・東京都千代田区、太田宗克社長）とBooking.com（＝ブッキング・ドットコム。本社・オランダ・アムステルダム、ギリアン・タンズ代表）は12月11日、民泊事業で業務提携した。

18年6月に予定されている住宅宿泊事業法（民泊新法）の施行に合わせて楽天ライフルステイが開設する民泊サイト「（仮称）Vacation STAY（＝バケーションステイ）」に掲載する日本国内の民泊施設を、世界最大級の宿泊予約サイトであるブッキング・ドットコムに供給する。

これにより、楽天ライフルステイの掲載民泊施設は、世界中からのインバウンド宿泊客の獲得が期待できる。

ブッキング・ドットコムの掲載施設総数は世界で150万軒。うち80万軒以上が別荘やアパートメントなどのバケーションレンタル（民泊）施設となっている。民泊施設の掲載数は、ホテルタイプ施設より速いペースで拡大しているという。

楽天ライフルステイはこれまで、各国・地域で1位の民泊サイトと次々と業務提携。日本国内で唯一、Airbnb（エアビーアンドビー）の対抗軸となりうる存在として注目されている。具体的には、17年7月4日にエクスペディア・グループのバケーションレンタルサイト「HomeAway（ホームアウェイ）」と、同7月20日に台湾の「AsiaYo!（アジア・ヨー）」と、同8月2日に中国の「途家（tujia・トゥージア）」とそれぞれ業務提携。バケーションステイ掲載施設の宿泊在庫の供給を決めている。

ブッキング・ドットコム・ジャパンで北アジア地区統括兼日本地区統括リージョナルディレクターを務めるアダム・ブラウンステイン氏は、同日両社が都内で開いた共同記者会見で「ブッキング・ドットコムにとって日本は重点市場。予約可能な民泊タイプ施設の増加を、特に地方の予約の増加につなげていきたい」と述べ、期待と意気込みを示した。

楽天ライフルステイの太田社長は「両社でサービス認知や集客拡大を目指し、協業してマーケティング活動を実施する」と強調した。また、海外の民泊予約への参入についても「検討段階に入っている。業務提携した各社と詰めの協議を行う」とコメントした。

一方、楽天ライフルステイと楽天トラベルとのサイト連携の可能性と時期については、「楽天トラベルの掲載宿泊施設からのご理解を得ることが大前提のため、現時点では未定」とした。

高速バスと観光⑫
岐路 バスと観光新たな関係
成定　竜一が説く【74】

停留所の設定だけではない。

現在の高速バスは「地方から都市への足」として使う地元リピーターに配慮するあまり、バスの外観、内装ともに過剰な装飾は好まれない。

しかし、たまに出張で乗った特急電車が展望席付きの車両だったりすると、それだけでなぜかワクワクして「次は出張ではなく旅行で乗ってみたい」などと感じる。待ちに待った休暇を迎えての旅行で乗車するなら、もっと気分が高まることだろう。

残念ながら、現在の高速バスにそのような車両はほとんど投入されていない。

例えば、ある高速バス路線では、目的地側の自治体が制作した観光案内のDVDを、発車後に車内で放映している。自治体や観光協会が制作した観光マップを配布するだけでも、旅の気分は高まるものである。特段の手間やコストをかけずとも、少なくとも今よりは「旅の気分を演出」することができるのである。

繰り返すが、これらの施策を全便で実行する必要はない。おおむね、大都市側を午前に、地方側を夕方に出発する、観光客の比率が比較的大きい便でのみ実施すればいい。まずは、既に観光客の利用が比較的多い路線で試行的に実施し、好評なら他の路線へ展開するという方法もある。

余談だが、仮に車内で観光案内のDVDを放映しようとした場合、DVD再生装置を搭載すると自体は簡単である。

一方、乗務員が操作する案内装置は、運転席の横のボタン一つで、音声合成による自動案内放送からモニター画面に表示する「次の停留所」表示まで完璧に連動している。

そこに割り込んでDVDを放映しようとすると、回線の切り替えが必要で、運転席でハンドルを握ったままの姿勢では困難な場合もある。現場としてはできれば避けたい、面倒な作業だろう。

そのような課題は認識したうえで、それでもなお、このような細かい施策を一つずつ実現していくことが重要だと考えている。

（高速バスマーケティング研究所代表）

「美食」企画を紹介
JR西日本と北陸3県

JR西日本と北陸3県（富山県、石川県、福井県）などでつくる北陸三県誘客促進連携協議会は、12月14日と15日に「Japanese Beauty Hokuriku～日本の美は、北陸にあり。～『美食』『美観』『美技』『美湯』『美心』の5つの『美』」で、今回は「美食」企画を充実させている。

越前がに釜揚げ

行程は首都圏の報道関係者は往路に東海道新幹線を利用して、米原駅で特急しらさぎに乗り換えて、福井駅に移動。復路は新高岡駅で北陸新幹線を利用して東京駅に戻った。関西地区は大阪駅から往路ともに特急サンダーバードを利用した。

取材会では、「美食」として紹介しているキャンペーン特別企画を体験してもらった。

報道関係者は、福井県の東尋坊商店街にある飲食店「夕なぎ」で越前がに釜揚げを見学し、茹でたての越前がに料理を試食。石川県の橋立港では、カニガイドによる加能ガニの説明を受けて、石川県加賀市の限定利き酒セットを取材した。富山県氷見市の氷見漁港場外市場「ひみ番屋街」では、寒ぶり解体見学と寒ぶりなど氷見の食材を使った「氷見三昧御膳」を試食した。

また、取材会では、丸岡城や能作工場見学、井波のまち歩きや、観光列車「花嫁のれん」なども紹介した。

T・iS博多店内に着物レンタル店
日本旅行がオープン

日本旅行は12月1日、T・iS博多支店（福岡市博多区）内に着物レンタル店「着物レンタルVASARA博多駅前店」をオープンした。新宿、T・iS京都、京都四条、T・iS大阪に次ぐ5店舗目。23日は吉祥寺支店（東京都武蔵野市）にオープン。

「着物レンタルVASARA」を運営するバサラホールディングスと協業。訪日外国人のコト消費の増加を受けて17年4月から京都の2店舗を皮切りに開設したところ、好評のため店舗数を拡大した。

気軽に着付け体験を楽しんでもらおうと、予約なしで来店した人にもサービスを行う。

今後は店舗展開のみならず、出張着付けや教育旅行コンテンツとしてのサービス提供、海外での訪日プロモーションイベントなど、さまざまな展開を視野に事業を強化する方針。

茨木市の事業受託
「工房」をオープン
日本旅行

日本旅行は12月10日、大阪府茨木市に「DIY工房」をオープンした。同市が行う「リノベのいばらきプロジェクト」事業を受託。工房は同プロジェクトの拠点として、ワークショップや講座、空き家改修体験など、各種の事業を行う。

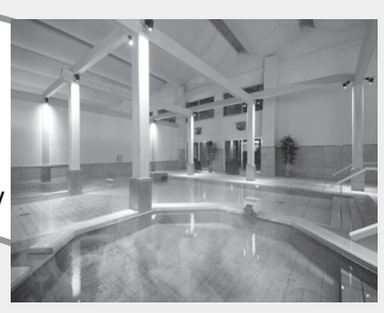
プロジェクトは総務省地方創生推進交付金活用事業として実施。DIY（自分でやる）とリノベーション（手を加え価値を高める）を切り口に、「自分たちでまちの価値を高めるまちづくり」を進める。

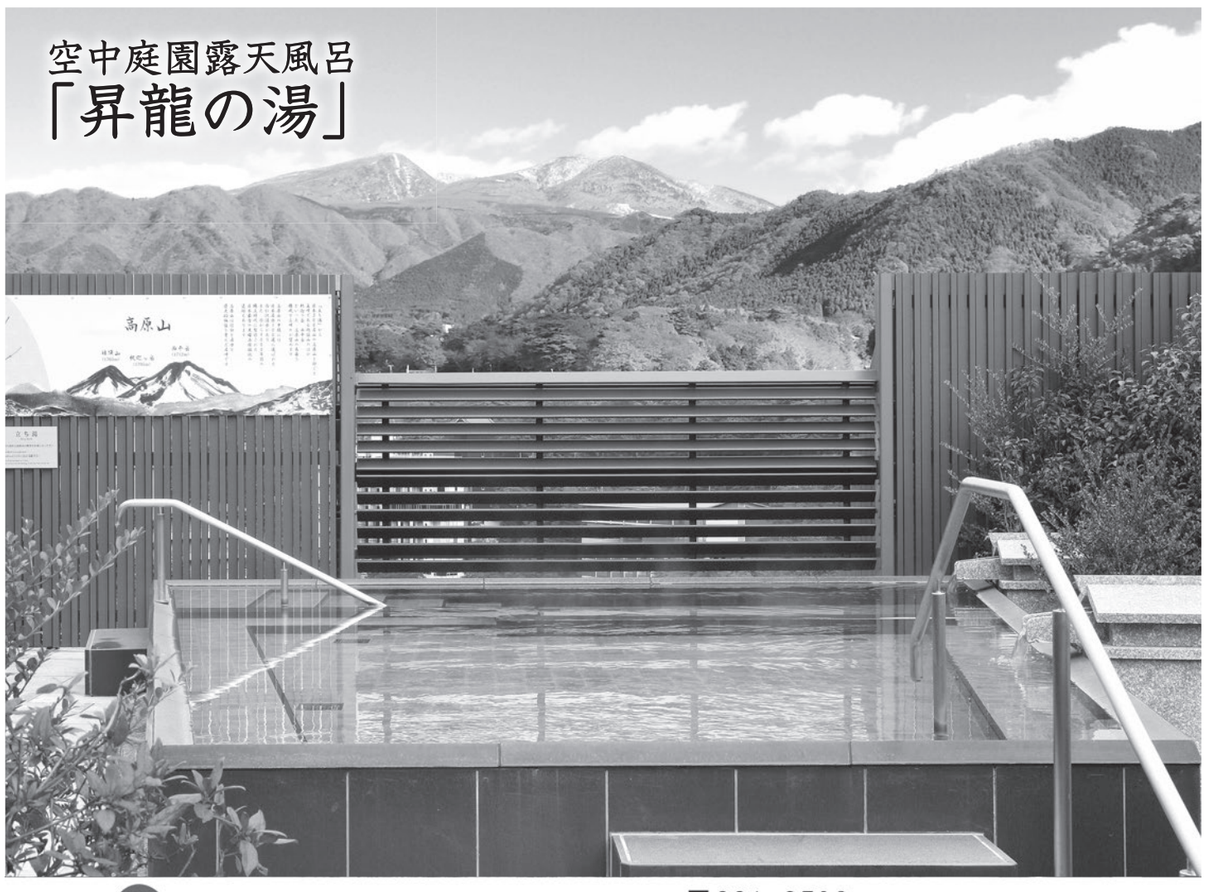
日本旅行は工房の維持、管理とワークショップなど各種事業のコンテンツの提案や実施、効果的なプロモーション活動、参加者の募集などを行う。

松乃井リゾート
ベトナムに松乃井誕生
MATSUNOI HOTEL
24/22 Dong Du, Ben Nghe Ward, District 1, HCMC
TEL：02838246068
http://matsunoi.vn/

樂源泉湯の宿 松乃井
〒379-1617
群馬県利根郡みなかみ町湯原 551
TEL：0278-72-3200
http://www.matsunoi.com/

樂源泉湯の宿 紫翠亭
〒378-0322
群馬県沼田市利根町老神 550
TEL：0278-56-4180
http://www.shisuitei.com/
樂源泉湯の宿 かいり
〒946-0088 新潟県魚沼市大湯温泉 301
TEL：025-795-2311
http://www.kairi.co.jp/


樂源泉湯の宿 千の谷
〒379-1404
群馬県利根郡みなかみ町相俣 248
TEL：0278-66-1151
http://www.sarugakyo.co.jp/

空中庭園露天風呂
「昇龍の湯」

創業1888年／日光国立公園鬼怒川温泉
あさや
〒321-2598
栃木県日光市鬼怒川温泉滝813
TEL 0288-77-1111
URL:http://www.asaya-hotel.co.jp